
ふせんモノガタリ

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふせんモノガタリ

【Nコード】

N0840K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

少年の体にいきなりふせんが現れた！

ふせんに書いてあることをすると、なにが起こるのかな？

ふせんモノガタリ

昼寝から目覚めると、僕の体はふせんだらけになっていた。

誰かのいたずらだろうか。

しかし、僕は一人暮らしだし、戸締りもきちんとしていたし、思い当たる人がいない。

まさか、寝ぼけて自分の体にふせんを貼ったのだろうか。
すると、どこからか声がした。

「君は、体に付いているふせんに書いてあることを実行すれば、幸運が訪れます。実行すれば、ふせんは消えます。でも、安心してください。ふせんはあなたにしか見えません。」

僕はついに気が変になったのだろうか。

自分の頭を叩いたり、頬をつねったりしたが、効果はなかった。

「君はふせんを大切に使っているから、そのお礼に、君を幸せにしたい。」

「あなたは一体何者なんですか。」

「私はふせん紙の神、要するに紙の神です。」

ちよと僕は、動物園の檻の中のような日常に飽きていたから、早速ふせんに書いてあることを実行してみた。

1枚めのふせんには、友達の家に行きなさい。と、書いてあった。僕は友達に連絡を取った。

今から行っても大丈夫だというので、友達の家に向かう。

途中の道で出会う生き物全てにふせんが付いていることに気が付いた。

たくさんふせんが付いている人もいれば、少しだけの人もいる。

猫には四つのふせんが付いている。

身を守る、食べる、寝る、殖えると書いてあった。

友達の家に着いたが、ふせんは消えなかった。

僕は、はて？と首を傾げたが、友達と話すのに夢中で、それどころではなくなった。

話していると、友達の背中に悩みを解決したい。と書いてあるふせんを発見した。

「よしひろ。今、悩んでるのか？」

「えっ、どうしてわかったの？」

ふせんのせいとは言えずに、ただ、何となく。と答えた。

「それがなあ。俺のペットのインコのぴっぴが、逃げちゃって心配なんだよ。卵の頃から育ててきたのに。今頃どっかの悪い猫や、からずに食われてるかもしれない。」

「そっか。きみはぴっぴちゃん命だったもんな。もし、見つけたら保護するよ。」

「ありがとう。」

その時、僕の体のふせんが、一つ、はがれて消えた。

帰り道で、次のふせんを見た。

泳ぐ。と、書いてある。

何だろうかと考えながら、とぼとぼ歩くうちに、やっと思い出した。今日は、市民プールが解放されている日だ。

僕は家に水着を取りに帰ってから、市民プールに行って泳いだ。

気持ちよく泳いだが、ふせんは消えない。

一休みして、仰向けに浮かんで空を見ると、ちょうど真上にぴっぴちゃんらしきインコが飛んでいった。

僕は急いで着替えてぴっぴちゃんが飛んで行った方に走るが、見当たらなかった。

「しまった。」

悔しくて、大きめの独り言を言ってしまう。

とにかく、次のふせんを見てみよう。

西へ走れ。と書いてある。

でも、西つてどっちだ？

方位磁針とか持っていないから分からない。

とにかく、右へ走った。

ぴっぴちゃんはいたが、素早く飛び去ってしまった。

「どうしたら・・・どうしたらいいんだ。」

また、大声で独り言をいつてしまった。

次のふせんを見ると、家に帰れ。と書いてある。

そういえば、ぴっぴちゃんが、飛び去った方向には、僕の家があった。

家に帰ってふせんを見ると、ベランダにコメをまけ。と書いてある。もったいないので、少しだけまいて待っていると、ぴっぴちゃんが現れてつえばみはじめた。

なるほど。僕がぴっぴちゃんを走って追うことで、家の方向へ行かせて、腹を空かせる。そして、コメでおびき寄せたわけか。

僕は、疲れ切った上に、油断した、ぴっぴちゃんをそつと手で包んで捕まえた。

そして何とか、押し入れにあつた鳥かごに移して、友に渡した。

友は大喜びしてくれた。

久しぶりに生きがいを感じた一日だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0840k/>

ふせんモノガタリ

2011年1月31日09時28分発行